

「うん。なんか、全然美味しくないな。」	「・・・。なんか・・・。」	「・・・。」	込む。	合図で飲み口から一気に黒い液体を胃に流し	を仰ぎ見る。「せーの」と音頭をとった敬の	その後ラベルを読み、敬は意味もなく缶の底	っている缶を片手で包んだ。まず匂いを嗅ぎ	殆ど同時にプルタブを起こし、もうぬるくな	「おっ、おう。」	「んじゃ早速飲んでみようぜ。」	笑みを浮かべた。	な恵太の表情に、敬は「にひっ」と音になる	呆れたような、けどそれでもどこか嬉しそう	「だから缶コーヒーをか？」	だよ。」	づくか、つまり早く大人になるかが大事なん	づかないとさ。今の時代いかにそのことに気	として安心してる場合じゃないってことに気	だぜ？そろそろみんなと足並み揃えて同じこ
---------------------	---------------	--------	-----	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------	-----------------	----------	----------------------	----------------------	---------------	------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

恵	「	「	い	「	好	つ	「	で	「	気	恵	「	が		り	不	お	さ	い
太	最	そ	か	う	良	た	お	に	よ	持	太	頼	な		明	安	互	・	や
は	初	う	？	ー	い	時	っ	刻	ー	ち	は	む	い		日	や	い	・	希
ノ	？	だ	」	ん	よ	に	、	も	し	を	前	ぜ	し		に	望	の	・	に
ー	え	な		、	な	、	こ	う	！	向	に	、	誰		発	に	込	」	発
ト	っ	。		や	。	の	の	こ	こ	き	か	か	か		展	め	た		し
に	、	そ		っ	な	時	の	と	の	な	っ	っ	に		し	想	い		、
大	、	れ		ぱ	ん	約	束	も	こ	が	て	て	響		、	の			そ
き	、	が		『	て	束	が	記	こ	有	ん	よ	く		そ	す			れ
く	、	最		武	書	が	活	録	こ	名	だ	」	よ		れ	り			で
『	、	初		道	く	き	て	し	こ	に	か				は	合			こ
武	、	の		館	？	く	る	て	こ	な	っ				や	わ			こ
道	、	夢		で	」	る	っ	お	こ	ん	て				が	せ			な
館	、	で		ラ		っ	て	こ	う	だ	ん				て	は			ん
で	、	あ		イ		格		う	！	か	ら				夢	将			だ
ラ	、	ん		ブ				っ	っ	ら	よ				に	来			け
イ	、	の		』				っ	っ	よ	」				広	へ			ど
ブ	、	？		」				っ	っ	」					が				け
！	、	」		な				っ	っ										ど
！		」		な				っ	っ										ど

「よーし楽しくなってきたぞー。あっそうだ	うに『か。うん。そうだよな！』	『恵太の奏でる音が世界中に響き渡りますよ	敬はノートにペンを走らせる。	「よっしゃ！じゃあおれも。」	にしまった。	の感情を笑みに変え、溢れたものを大事に胸	情を届け切ってくれた。敬は湧き上がる喜び	グラウンドに大きく声を響かせる事でその感	恥ずかしいのか恵太は顔を背け、誰もいない	だ。」	でそれをずっとサポートするのが、おれの夢	その人に届けることを止めないで欲しい。ん	おれみたいな奴は絶対この世の中にいるから	たし、敬が紡ぐ言葉に助けられてんだ実は。	な。敬の歌を初めて聴いた時におれは感動し	「冗談抜きでさ。おれは敬に救われてんだよ	うに『つておいつ、なんだよこれ。』	『敬がずっと言葉を届け続けてくれますよ	と書き込み、その下に言葉を付け足した。
----------------------	-----------------	----------------------	----------------	----------------	--------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-------------------	---------------------	---------------------

越	「	の	た	や	「	「	見	そ	見	薄	「		は	と	「	恵
さ	何	？	ら	ん	当	真	つ	れ	れ	く	ま		じ	言	大	太
れ	や	」	真	か	た	弓	め	ち	微	微	あ		め	い	変	塾
ち	っ	」	弓	。	り	ち	て	ゃ	笑	笑	そ		た	な	だ	は
ゃ	っ		ち	。	レ	ゃ	い	ん	み	み	れ			が	な	大
う	て		ゃ		ー	ん	。	の	な	な	が			ら	あ	丈
ぞ	ん		ん		で	に	。	件	が	が	条			恵	、	夫
」	だ		に		う	告	。	ど	ら	ケ	件			太	ま	？
	よ		白		ち	す	。	う	ス	ー	だ			は	だ	」
	。		る		の	る		な	ス	ス	」			ギ	大	
	も		っ		ク	っ		っ	が	の	と			タ	丈	
	う		て		ラ	。		。	一	蓋	恵			ー	夫	
	す		。		ス	。		。	位	を	太			を	夫	
	ぐ		も		が	。		。	に	閉	を			ケ	夫	
	十		う		一	。		。	に	め	を			ー	夫	
	二		告		位	。		。	し	た	を			ス	夫	
	月		っ		に	。		。	ま	恵	を			に	夫	
	だ		た		な	。		。	い	太	を			し	夫	
	ぜ		っ		っ	。		。	ま	を	を			ま	夫	
	？		た		。	。		。	い	を	を			い	夫	
	先		。		。	。		。	い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	
									い	を	を			ま	夫	
									い	を	を			い	夫	

つ	く	既	抱		た	い	比	“	た	一	い	「	を	他	こ	突	お	た
が	こ	に	え	「	こ	け	べ	な	。	つ	わ	「	吐	は	こ	っ	祭	。
加	と	乾	ら	で	。	ど	る	ぜ		だ	な	い	いた	気	こ	走	の	。
害	は	いた	れ	ま	そ	、	こ	彼		け	い	っ	た	付	ま	つ	舞	。
者	ま	た	な	る	し	彼	も	女		だ	い	、	。	き	で	台	。	。
だ	る	頼	い	で	。	女	変	に		。	い	。		、	。	上	。	。
と	で	の	ん	自	。	の	で	話		。	い			言	。	。	。	。
聞	分	涙	だ	分	。	中	、	を		。	い			葉	。	。	。	。
こ	が	線	よ	が	。	の	違	聞		。	。			を	。	。	。	。
え	被	を	。	被	。	同	い	い						切	。	。	。	。
て	害	指		害	。	じ	て	て						り	。	。	。	。
し	者	で		者	。	よ	ら	ら						代	。	。	。	。
ま	み	な		み	。	う	っ	っ						わ	。	。	。	。
う	た	ぞ		た	。	な	っ	っ						り	。	。	。	。
か	い	っ		い	。	ん	て	て						に	。	。	。	。
ら	で	消		で	。	た	し	い						音	。	。	。	。
。	、	す		。	。	。	な	の						に	。	。	。	。
	あ	。		。	。	。	ん	か						し	。	。	。	。
	い	泣		。	。	。	て	か						て	。	。	。	。
							し	”						息	。	。	。	。

